

薩摩硫黄島の火山活動解説資料(平成 20 年 12 月)

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

噴煙活動はやや活発で、火山性地震はやや多い状態が続いています。

今後、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1km の範囲では警戒が必要です。

平成 19 年 12 月 1 日に火口周辺警報(噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

12 月の活動概況

・噴煙などの表面現象の状況(図 2)

硫黄岳山頂火口からの噴煙は、白色で高さは概ね 200m とやや活発な状態で経過しました。

・地震、微動の発生状況(図 2、図 3)

地震活動はやや活発な状態で経過しました。

火山性地震の月回数は 116 回(11 月: 102 回)とやや多い状態で経過しました。

火山性微動は 1 回発生しました(11 月: 5 回)。

・上空からの観測(図 4)

12 月 16 日に海上自衛隊鹿屋航空分遣隊の協力により実施した上空からの観測では、硫黄岳火口内やその周辺部の熱異常域の分布に大きな変化はありませんでした。

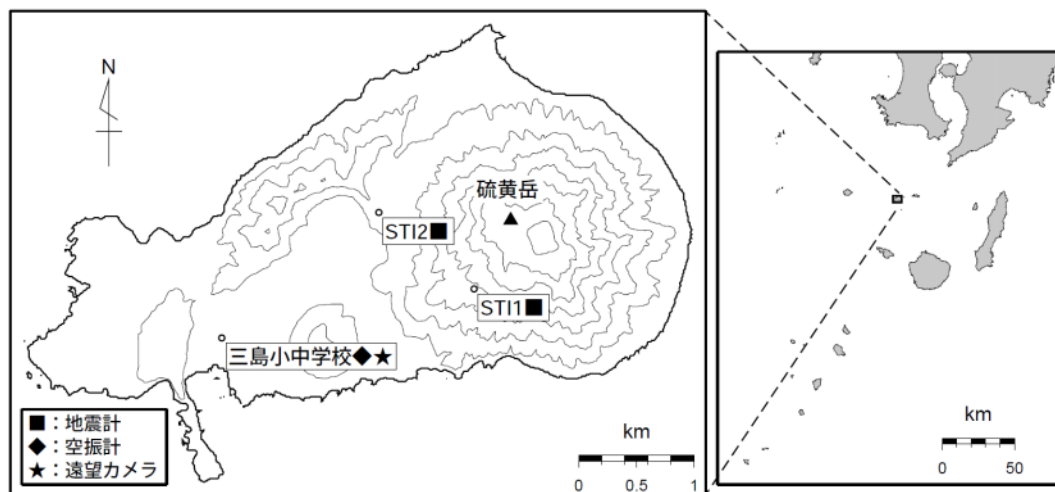


図 1 薩摩硫黄島 観測点配置図

地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 10mメッシュ(火山標高)』を使用しています(承認番号: 平 20 業使、第 385 号)。

この火山活動解説資料は、気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料(平成 21 年 1 月分)は平成 21 年 2 月 6 日に発表予定です。

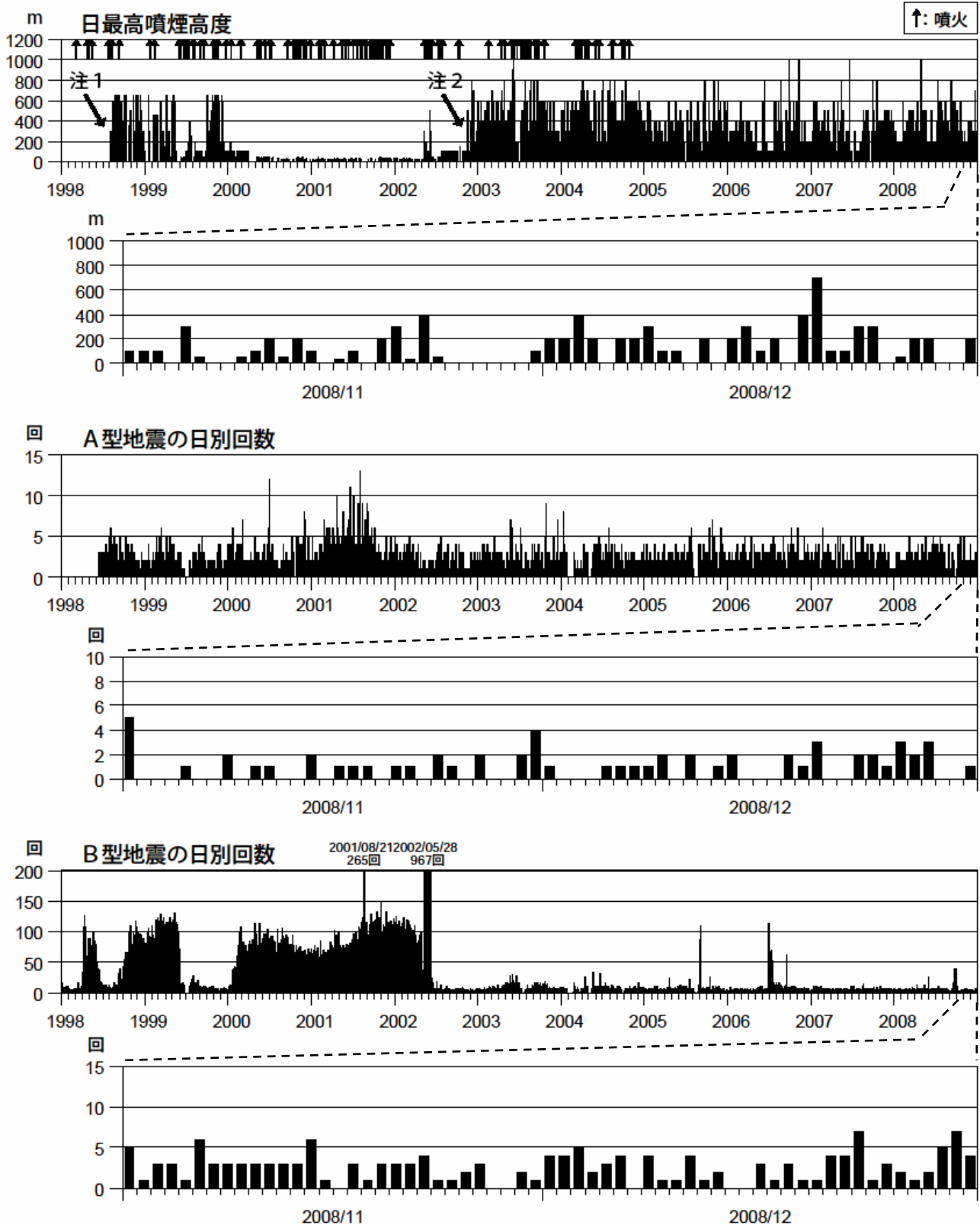


図2 薩摩硫黄島 火山活動経過図(1998年1月～2008年12月)

- ・噴煙は白色で、高さは概ね200mで推移しました。
- ・A型地震は32回(11月：28回)で、大きな変化はありませんでした。
- ・B型地震は84回(11月：76回)で、大きな変化はありませんでした。

注1 1998年8月1日 三島村役場硫黄島出張所から気象庁へ通報開始。

注2 2002年11月16日 気象庁が設置した監視カメラによる観測開始。

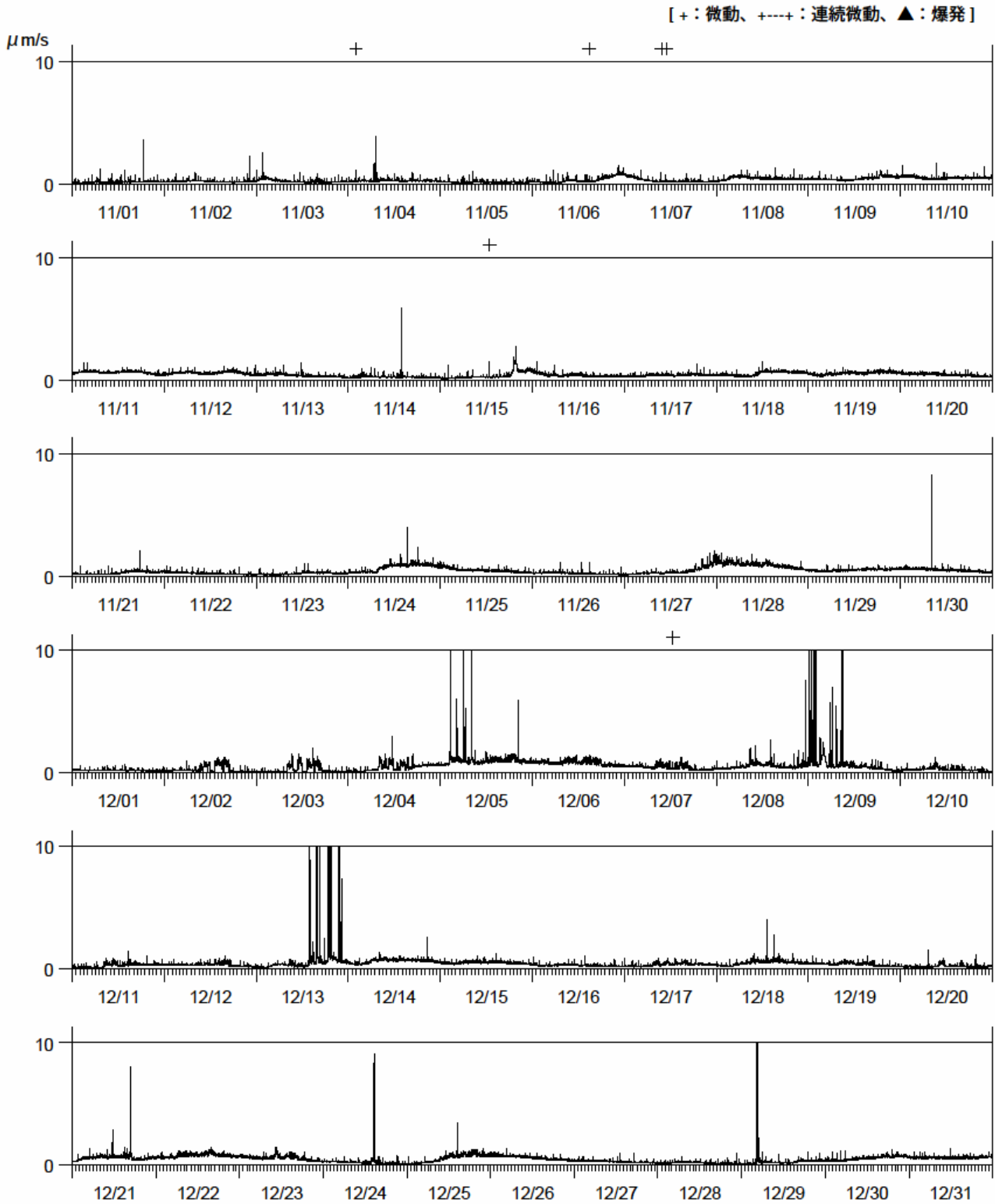
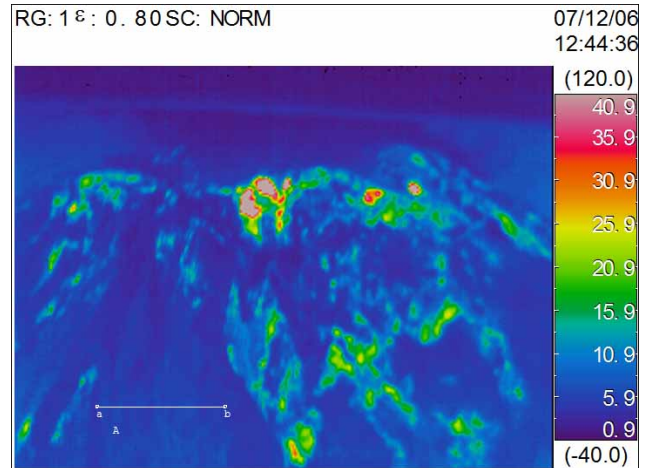
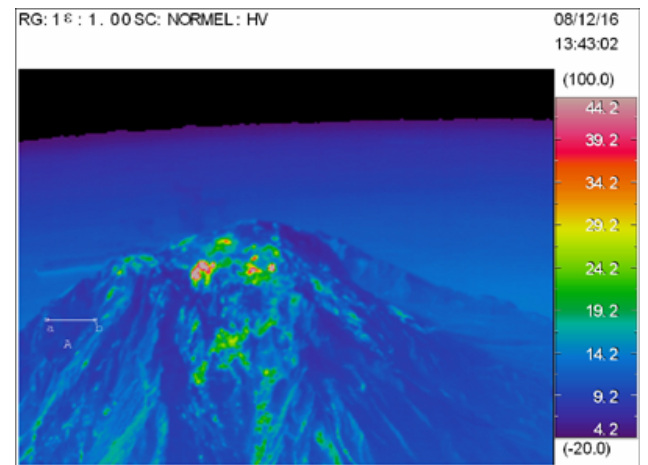


図3 薩摩硫黄島 1分間平均振幅の時間変化(ST1上下成分)(2008年11月~12月)
火山性微動は7日に1回発生しました(11月:5回)



可視画像と熱画像 2007年12月6日



可視画像と熱画像 2008年12月16日

図4 薩摩硫黄島 上空から撮影した可視画像¹⁾と熱画像の比較
赤外熱映像装置²⁾による観測では火口内やその周辺部の熱異常域の分布に大きな変化はありませんでした。

熱画像の温度表示レンジは熱異常域ではない領域の平均温度(ラインA)で調整しています。

- 1) 2007年12月6日及び2008年12月16日の写真は、海上自衛隊鹿屋航空分遣隊の協力による
- 2) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度を測定する測器で、熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

撮影方向

